ホットな情報をお伝えします

総福研 fax news 210412

トピックス

保育人材の確保とICTの活用が課題

～経営協が保育事業経営法人実態把握調査報告書をまとめました～

◆全国社会福祉法人経営者協議会の保育事業経営委員会は、国に対する保育施策に関する提言ならびに今後の保育事業経営のあり方の検討に向けて、保育経営法人が抱える経営上の課題や実態を把握することを目的として、「保育事業経営法人実態把握調査報告書」を取りまとめました。この報告書は「２０４０年問題と外部環境の変化」、「実態把握調査の結果」、「保育事業経営継続のためにおさえておくべき視点」の３章からなっています。

第１章では、子ども･子育てをめぐる制度の動きや都市部の待機児童問題と地方部の過疎化問題、また慢性的な保育人材不足など、現在の保育事業の課題についてまとめられています。

第２章では、会員法人に対する調査結果として、①保育所の72%、幼保連携型認定こども園の83%が黒字傾向にあること、②公定価格について、制度の複雑さや手続きの煩雑さに苦慮していること、③73%が保育人材の確保を課題としていること、などが挙げられています。そしてこれらを踏まえ、①保育人材不足と採用･育成･定着サイクルの確立、②複雑化･多様化する保育ニーズの対応にかかる保育サービスのあり方、③生産性の向上やＩＣＴの活用に関する情報の不足、④少子高齢･人口減少社会における事業展開の検討、⑤制度や諸施策に対する要望、の５点を、保育事業経営法人が抱える課題であるとしています。

第３章では、事業継続にあたって重点的に実践･検討すべき事項と、子ども･子育て支援施策に対する提言の柱とに分けて、課題が整理されています。

少子化対策･子育て支援はわが国の将来を考えるうえで重要な問題です。政府･自民党内においても、厚生労働省、文部科学省、内閣府等がそれぞれ所管している児童行政を一元的に担当する「こども庁」の創設が検討されていますが、この報告書の内容がその議論に取り入れられることを望みます。　（事務局）

保育士の平均給与、7年連続で上昇

～賃金構造基本統計調査から総福研事務局で試算～

◆４月１日に厚生労働省が「令和２年賃金構造基本統計調査」を公表しました。この調査は統計法に基づく基幹統計調査で、主要産業に雇用される労働者の賃金の実態を、労働者の雇用形態、就業形態、職種、性、年齢、学歴、勤続年数、経験年数別等に明らかにするものです。医療･社会福祉･介護事業等に従事する職種についてもそれぞれ集計されていますが、今回はその中から「保育士（女）」について分析してみました。

この統計については従来から掲載していますが、令和２年から職種区分が見直され、保育士についても、従来の「保育士（保母･保父）」が「保育士」へとなりました。もっともその対象人数に大きな違いはありませんので、調査対象者はほぼ同様と考えられます。

この統計では毎年６月の「きまって支給する現金給与額」とそのうちの「所定内給与額」、そして前年の「年間賞与その他特別給与額」を集計しています。月額を12倍して賞与等を加えた額を年間給与と考えて試算しました。昨年の試算額が362万円、今年は373万円ですので、対前年3.0%の上昇で、７年連続の上昇となっています。処遇改善加算の効果が表れていると考えられます。もっとも全労働者（女）の試算額は382万円ですので、まだそこには届いていません（年齢や勤続年数も考慮する必要がありますが）。

この統計の年齢階級別の試算が参考資料の図表１、都道府県別の試算が図表２です。年齢階級別にみると50歳代前半が437万円で最も高く、50歳代後半の435万円がこれに次いでいます。都道府県別に見ると、昨年は東京都が415万円で最も高かったですが、今回は千葉県が437万円と最高になっています。　（事務局）

※ 次回は介護職員について解説したいと思います。

世界の死者数が300万人に？

～1年前を振り返り、改めて感染予防対策の点検を～

◆新型コロナウイルス感染症の「世界の死者10万人に」とお知らせしたのがちょうど１年前でしたが、その後各国各地に感染が拡大し、世界の死者は293万人（４月10日現在）と30倍に、感染者も１億3,536万人と80倍超となっています。

日本における死者は、１年前は「100人になる！」と心配していましたが、今は「１万人になる！」と心配する状況です。しかも今年の１～３月でそのうちの5,700人の方が亡くなっています。日々の感染者数･死亡者数に目が行き一喜一憂してしまいますが、インフルエンザでの年間の死亡者数は、今世紀では多い年でも3,000人程度、昨年（2020年）は1,000人を下回る程度ですので、やはり新型コロナウイルス感染症の犠牲者は多いと言わざるを得ません。感染者数も１年前は累計で７千人弱でしたが、現在は50万人を超えています。

この１年間で判ってきたこともたくさんあり、漠然とした不安におびえることは少なくなったかもしれません。しかし逆に接待を伴う飲食から一般的な飲食、院内感染や家庭内感染へと、注意しなくてはならない局面も多岐に亘ってきましたし、変異ウイルスの感染拡大にも注意が必要です。その一方で、私事ではありますが、気付かぬ間に手洗いの回数や時間が減っているのではないかと感じるこの頃です。日々の業務として身についている医療機関や福祉施設等の方々には釈迦に説法ですが、当初定めた予防対策やその後の気付きから定めたことがきちんと行われているか、この時期に改めて点検することも必要だなと。

今週から高齢者向けのワクチン接種が開始されるとのことで、感染が収束に向かうことを願いつつ、１年前を振り返る日々です。　（事務局）

お知らせ

◆4/9(金)、定期研修会を開催致しました。多くの会員事務所様にご参加頂き、大変ありがとうございます。

◆第37回総合福祉研究会　全国大会は、10月29日(金)・30日(土)に、東京(都市センターホテル)にて開催予定です。新型コロナウィルス等の状況により変更の可能性もございますが、その際はまたご連絡をさせて頂きます。皆様スケジュールのご確認をどうぞよろしくお願い致します。

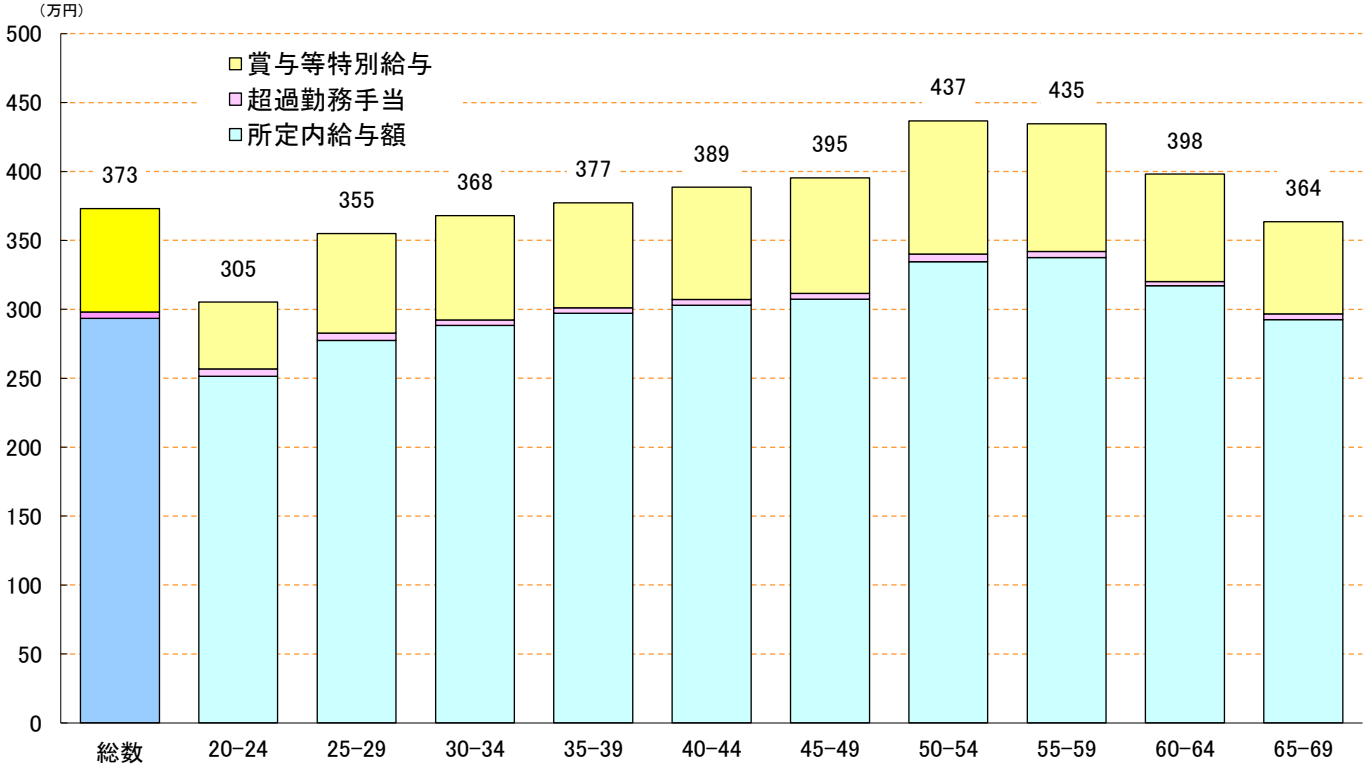
◆ FAX NEWS（PowerPointにて制作）は下記URL総福研ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞからﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞしていただけます。どうぞご利用下さいませ。◆

一般財団法人
総合福祉研究会

本部事務局
ＴＥＬ：03-5961-6061
ＦＡＸ：03-3915-2661

〒170-0004
東京都豊島区北大塚1丁目13-12　全経会館ビル2階
E-Mail　info@sofukuken.gr.jp
ＵＲＬ　http://www.sofukuken.gr.jp/

◆図表1　年齢階級別年間給与（試算額）の比較：保育士（女）

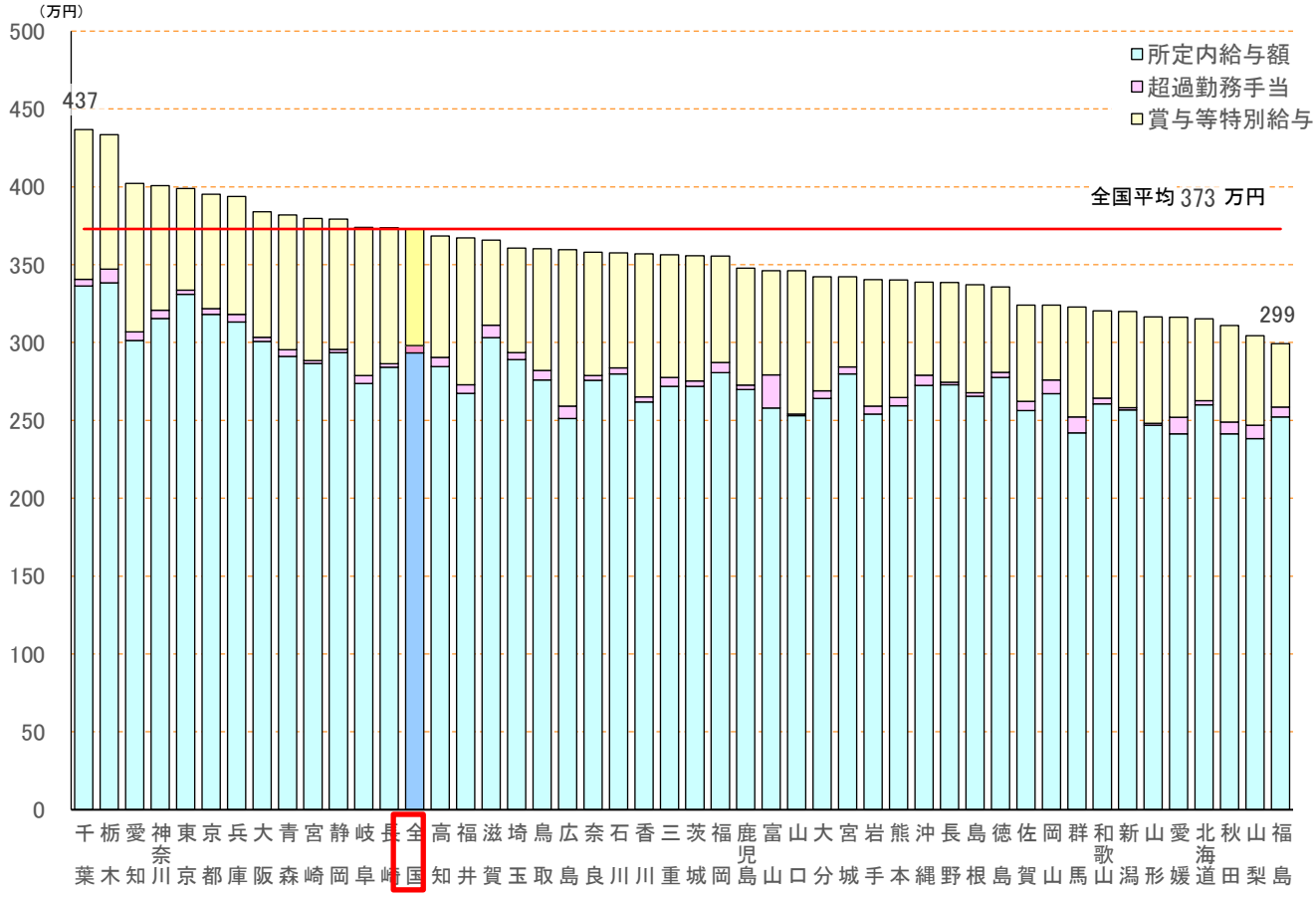


◎ 年間給与(試算額)は、「きまって支給する現金給与額×12月＋年間賞与その他特別給与額」で算出しています。

※ 総数には70歳以上を含んでいます。

資料：厚生労働省「令和2年賃金構造基本統計調査」から試算、作成

◆図表2　都道府県別年間給与（試算額）の比較：保育士（女）



◎ 年間給与(試算額)は、「きまって支給する現金給与額×12月＋年間賞与その他特別給与額」で算出しています。

資料：厚生労働省「令和2年賃金構造基本統計調査」から試算、作成